研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-770		17-071	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Past alcohol consumption and incident atrial fibrillation: The Atherosclerosis Risk in Communities (ARIC) Study.

過去飲酒と新規発症心房細動との関係：ARIC 研究

執筆者

Shalini Dixit,　Alvaro Alonso,　Eric Vittinghoff,　Elsayed Soliman,　Lin Y. Chen, Gregory M. Marcus

掲載誌

PLoS One. 2017 Dec 21;12(12):e0190329. doi: 10.1371/journal.pone.0190329.

キーワード	PMID
心房細動、断酒、飲酒量、節制	29045461

要　旨

目的：

現在飲酒は心房細動発症の危険因子であるが、より臨床的意義のある疑問は、断酒により心房細動発症リスクが低下するかどうかであろう。その点を疫学的に検討した。

方法：

1987 年～1989 年（＝ベースライン）時点で心房細動を有していない ARIC（Atherosclerosis Risk in Communities Study）コホート参加者を解析対象とした。飲酒状況はベースライン以降、3 回の追跡調査でそれぞれ情報を得た。心房細動は追跡調査時の心電図、（追跡期間中入院した者は）退院時の ICD-9 コード、死亡診断書により情報を得た。

結果：

生涯非飲酒者と現在飲酒者と比較して、過去飲酒者は心房細動の発症リスクが高かった。過去飲酒者においては、断酒期間が 10 年長くなるにつれ心房細動のリスクは約 20%低下していた一方、過去の飲酒期間が 10 年長くなるにつれ心房細動のリスクは 13%上昇していた。過去の飲酒時期における 1 日当たりの飲酒が 1 ドリンク（訳注：1 ドリンクはアルコール換算 12～13g）多いほどに心房細動の発症リスクは 4%高かった。

結論：

過去飲酒者においては、過去の飲酒期間と飲酒量とが各々心房細動の発症リスク増加と関連すると思われる。断酒期間が長いと心房細動のリスクが低下するので、飲酒制限が早期であるほど心房細動予防効果も大きいことが示唆された。